

ホルムアルデヒド放散等級
F☆☆☆☆

防火材料認定 NM-8585：不燃材料
 QM-9816：準不燃材料
 RM-9364：難燃材料

汚染除去性内装用シリコンエマルション系塗料[EP-Si][EP-CS]



Hi ビニフレッシュセラ



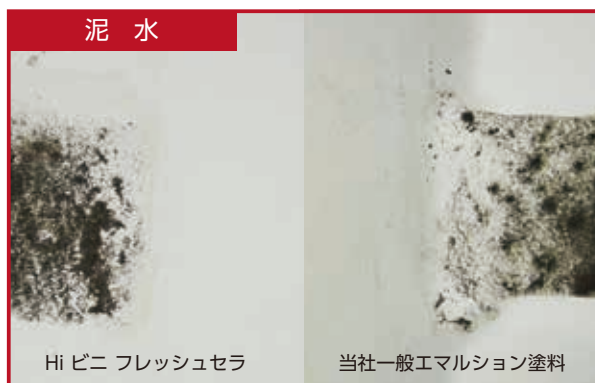
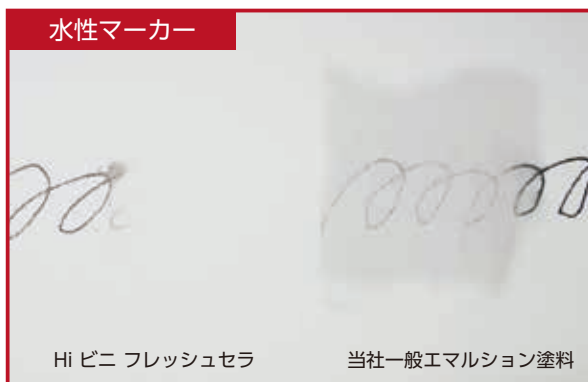
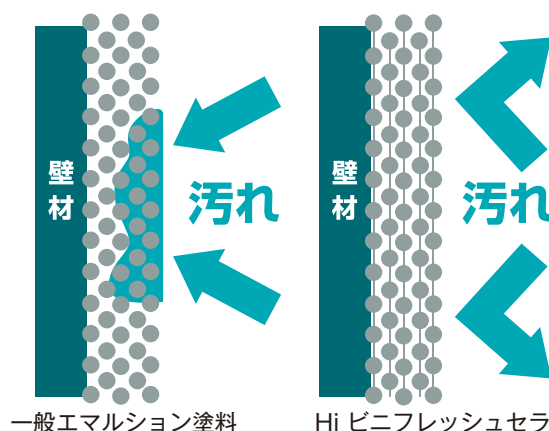
Hi ビニフレッシュセラ

Hi ビニフレッシュセラは特殊アクリルシリコンエマルション樹脂と微粒子顔料をベースとした内装用塗料です。さらに撥水性を高めることで、従来の内装用エマルションペイントと比較して、塗膜に汚れを染み込みにくくすることができます。

■ 特長

① 汚染除去性

特殊反応硬化形アクリルシリコンエマルション樹脂と微粒子顔料により、塗膜に硬度、緻密性、撥水性を持たせることで、塗膜に汚染物質が浸透しにくくなり、付着した汚れも従来のエマルション塗料に比べ容易に拭き取ることができます。油性の生活汚れの付着や浸透を防ぎ、きれいな状態を維持できます。



試験方法：各種の汚れを付着させ中性洗剤を含ませた布でふき取り、さらに水ぶきを行う

※乾燥条件や用途により実際とは若干の差が出ることがあります。 ※Hi ビニフレッシュセラの乾燥が不十分な場所では、性能を十分に発揮しない可能性があります。その為、低温時や湿気のこもるような場所では数日間乾燥が必要となります。

※長期間汚れを放置すると除去が困難となりますので、なるべく早めに中性洗剤などでふきとってください。

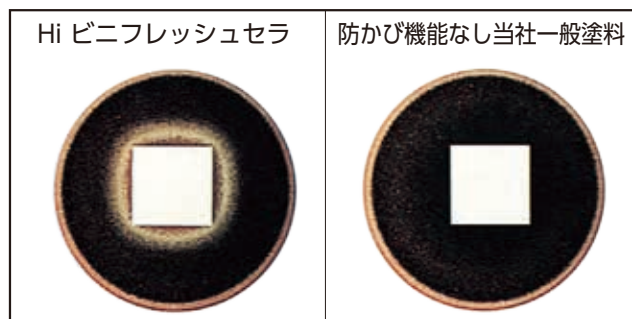
② 低臭性

特殊エマルジョンの採用により、塗装中に嫌な臭いがせず、塗装後も嫌な臭いが残りません。TVOC1%未満で有害金属(鉛、クロムなど)を配合しないので環境、健康にやさしい塗料です。

③ 防藻防かび、抗菌性 ※抗菌機能はオプションとなります

建物に発生する藻類やかびの繁殖を抑制します。また、院内感染や食中毒の原因となる菌の繁殖を防ぐ抗菌機能をオプションとして付与できます。

【防かび】



④ 耐洗浄性

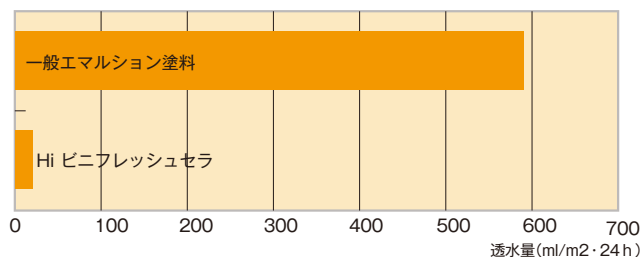
JIS K 5663.7.12に準拠し、ブラシの荷重450gで洗浄し、塗膜の破れ、剥がれ、下地の露出を確認する。



試験方法：JIS 耐洗浄性試験で実施

⑤ 透水性

透水試験により一般エマルジョン塗料とHi ビニフレッシュセラを比較。水を通しにくいため、汚れも浸透しにくい塗膜です。

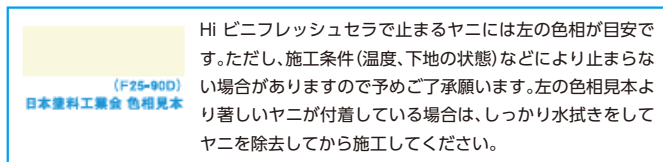


試験方法：JIS 透水試験B法により実施。1m²あたりに換算して表記

⑥ ヤニ止め効果

ヤニ止め効果があるため、軽微なヤニであれば止めることができます。

※ヤニ止めレベルの目安をご参照ください



ヤニ止めを目的とする際の注意事項と目安

- ヤニが著しく付着している場合は、ウエスなどでヤニを水拭きして被塗装面を十分に乾燥させてから塗装してください。
- 希釈を少なくし、1回目の塗装を十分乾燥(目安：23℃ 6時間)させてから2回目の塗装をすることでヤニ止め性が向上します。
- しみ、あく面は止まりにくい場合がありますので、ウエスなどで水拭きを行い、被塗装面を十分に乾燥させてから塗装してください。

■ 用 途： 内部・準外部壁面

■ 適用下地： 内壁面(コンクリート、モルタル、けい酸カルシウム板、プラスターボード、石こうボード等、及び塩化ビニルクロス)の新設・塗り替え塗装

■ 容量・荷姿

荷 量	色 相	つ や	1缶当たりの塗装面積
16kg	淡彩～濃彩色	つや消し	57～66㎡/2回
4kg			14～16㎡/2回

■標準塗装仕様

●平滑面

工 程	塗料名	使用量 (kg/m ² /回)	塗り重ね 乾燥時間(23℃)	希釈剤	希釈率 (%)	塗装方法
素地調整	新設面	●エフロレッセンス、レイタンスなどの粉化物、よごれ、油分などを除去してください。 ●吸い込みの著しい下地には、吸い込み止め、付着確保のためのニッペ水性カチオンシーラーを上塗りの前にご使用ください。				
	塗替面	●浮き膜を除去し、その周辺もケレンしてください。 ●粉化物、よごれ、ごみ、かびなどを除去し、清掃してください。				
下塗り ^{注1)}	ニッペ水性カチオンシーラー (透明・ホワイト)	0.10~0.16	4時間以上	水道水	透明無希釈 ホワイト0~10	はけ、ウールローラー
上塗り①	Hiビニフレッシュセラ	0.12~0.14 ^{注2)}	2時間以上	水道水	0~10%	ウールローラー、はけ エアレススプレー
上塗り②	Hiビニフレッシュセラ	0.12~0.14 ^{注2)}	——	水道水	0~10%	ウールローラー、はけ エアレススプレー

注1)下塗りには水性透明シーラー、水性ホワイトシーラーも使用できます。

注2)Hiビニフレッシュセラの塗付量は、0.10kg/m2/回です。使用量：被塗装面単位面積あたりの塗装材料(希釈する前)の使用量

●塩ビクロス面

工 程	塗料名	使用量 (kg/m ² /回)	塗り重ね 乾燥時間(23℃)	希釈剤	希釈率 (%)	塗装方法
素地調整	塩化ビニールクロスのめくれ、浮き、破れなどは十分に補修し、油よごれ、水溶性の汚染物などは中性洗剤で拭き取り、さらにウエスで水ぶきして乾燥した面にしてください。					
上塗り①	Hiビニフレッシュセラ	0.12~0.14	2時間以上	水道水	0~10%	ウールローラー、はけ エアレススプレー
上塗り②	Hiビニフレッシュセラ	0.12~0.14	——	水道水	0~10%	ウールローラー、はけ エアレススプレー

※上記の各数値は、すべて標準のものです。被塗物の形状、素地の状態、気象条件、施工条件によりそれぞれ多少の幅を生じることがあります。塗料の塗り重ねは所定の塗り重ね乾燥時間をまもってください。

(縮み、割れ、乾燥不良、付着不良などが起こります。特に旧塗膜がリシンなどの粗面の場合、塗付が大幅に増えますので試験塗装などして確かめてください)

※かび発生面に塗装する場合は、必ず以下の処理を行って塗装してください。

1)5%の次亜塩素酸ソーダ水で殺菌処理してください。

2)処理剤塗付後は必ず水洗いをし、十分に乾燥させてください。

※塗料を厚く付けすぎると、割れが発生する場合があります。必ず使用量をおまもりください。 ※弾性塗膜の塗り替えには使用しないでください。

※カタログに記載されている内容は一般的な環境下での施工を想定して記載されております。

特別な環境が想定される施工現場・部位に塗装される場合は、事前に必ず当社営業までご相談いただきますようお願いします。

施工上の注意事項（詳細な内容については、各製品の製品使用説明書などにてご確認ください）

- 絶えず結露が発生するような用途、場所での使用は避けてください。著しい結露が発生する場所では、塗料中の水溶成分が表面に溶出し、粘着物などとなって析出するおそれがあります。著しい結露が予測される場合は、塗装を避けるか、溶剤系塗料での塗装をおすすめ致します。
- 塗装場所の気温が5℃未満、もしくは湿度85%以上である場合、または換気が十分でなく結露が考えられる場合、塗装は避けてください。
- 防凍・防かび・抗菌効果は、繁殖を抑制するものです。すでに繁殖している場合は、下地処理として除去および殺菌処理をしてから塗装してください。
- 塗装後、乾燥不十分な状態で降雨結露などがある場合や、低温、高湿度、通風のない場合には、影れ、はく離、割れ、白化、シミが発生するおそれがありますので、塗装を避けてください。やむを得ず塗装する場合は、強制換気などで湿気を飛ばすようにしてください。
シミが発生した場合は乾燥後水拭きして除去してください。
- 色相によっては降雨、結露によってぬれ色になる場合がありますが、乾燥すると元に戻ります。
- 乾燥後の塗膜に付いた汚れは、シンナーなどの溶剤では拭かず、せっけん水で洗浄してください。
- スプレーノズルの先端は、ときどき水洗いをしてください。作業効率の低下および塗りむらの原因になります。
- 乾燥条件によっては塗膜表面に粘着を感じることがありますが、時間とともになくなります。
- 反応硬化タイプの塗料のため、使用後のはけなどはできるだけ早く水で洗浄してください。固まった場合は、すみやかにラッカーシンナーで洗浄してください。
- 動物のはけは、はけが固まったりダマになりやすいので、できるだけナイロンはけをご使用ください。
- JIS K 5663 1種(主として屋外用)の試験に合格する性能を有しておりますが、耐久性が必要な外壁には、外壁専用塗料をご推奨いたします。
- 12.塗面に割れが生じるおそれがあるため、軟らかい塗膜の上への塗装は避けてください。
- 13.本品は必ず2回塗りをしてください。1回塗りと2回塗りは仕上がり感が異なります。
- 14.汚染除去性は、乾燥条件、使用量、塗り回数などにより若干差があるのであります。
- 15.つや有り仕上げを塗り替える場合、種類によっては適性がない場合がありますので、試し塗りをしてから施工してください。
- 16.繊維壁、耐火被覆用けい酸カルシウム板、ロックウールなどの非常にぜい弱な素材には塗装できません。
- 17.吸音板塗り替え用顔料分塗材(シールマットⅡなど)の塗り替えには使用できません。
- 18.氷点下で貯蔵すると凍ります。凍らないように5℃以上で貯蔵、保管してください。
- 19.旧塗膜に発生した藻・かびは、洗浄などで必ず除去し、清浄な面としてください。付着阻害をおこすおそれがあります。
- 20.風化面・吸込みの著しい下地では、ニッペ浸透性シーラー(新)、ニッペファイン浸透シーラー、ファインパーフェクトシーラーをご使用ください。
- 21.やにが著しく付着している場合は、ウエスなどでやにを水拭きして除去し被塗装面を十分に乾燥させてから塗装してください。
希釈を少なくし、1回目の塗装を十分乾燥(目安23℃、6時間)させてから2回目の塗装をすることでやに止め性が向上します。
シミ、あく面は止まりにくい場合がありますので、ウエスなどで水拭きを行い、被塗装面を十分乾燥させてから塗装してください。
- 22.下地にタバコのやに汚れが著しい場合は、下塗り材として水性シミ止めシーラーⅡを塗装してください。
- 23.塩化ビニールクロスのはがれ、めくれ、浮きなどは接着剤で貼り付け、ローラーで圧着したり、類似クロスで面合わせをするなどあらかじめ補修してください。
またクロスの接着力が低下している場合、塗装することでクロスが浮き上がってくることがありますので、クロスの合わせ部などはあらかじめ接着剤などで押さえておくことが安心です。
- 24.素地表面のアルカリ度はpH10以下、表面含水率は10%以下(ケット科学社製CH-2型で測定した場合)、または5%以下(ケット科学社製H500シリーズ;コンクリートレンジで測定した場合)の条件で塗装してください。
- 25.内外壁の新設仕様の場合は、必ず下塗りにシーラーを塗装してください。
- 26.材齢の若いコンクリートなどセメント成分が十分に硬化していない場合、エフロレッセンスが発生するおそれがありますので、溶剤系シーラーをご使用ください。
- 27.屋外の塗装で降雨、降雪のおそれがある場合、および強風時は塗装を避けてください。

- 28.塗装時および塗装後に密閉しますと乾燥が遅れますので、換気を十分に行ってください。
- 29.塗装時および塗料の取り扱い時は、換気を十分に行い、火気厳禁にしてください。
- 30.飛散防止のため必ず養生を行ってください。
- 31.シーリング面への塗装は、塗膜の汚染、はく離、収縮割れなどの不具合を起こすことがありますので行わないでください。やむを得ず行う場合は、シーリング材が完全に硬化した後に行うものとし、塗り重ね適性を確認し、必要な処理を行ってください。
また、ニッペフリードオフプライマーを下塗りすることで、可塑性移行による汚染の低減が図れますが、シーリング材の種類、使用条件などによりはく離、収縮割れが起こることがあります。
- 32.笠木、天端など長時間水が滞留する箇所では塗膜の白化、割れなどが発生する場合がありますので、養生シートの設置方法などに配慮し、換気を促してください。
- 33.薄めすぎは隠ぺい力不足、仕上がり不良などが起こるため規定範囲を超えて希釈しないでください。
- 34.上塗りに冴えたイエロー、レッド、ブルー、グリーン系色相を使用する場合は、共色を下塗りしてから塗装してください。
なお、特に冴えた色相では、共色を下塗りしても標準の使用量、塗装回数で隠ぺい出来ない場合がありますため、事前に試験施工塗り板等でご確認ください。
- 35.調色には必ず当社専用の原色をお使いください。
- 36.濃彩色や冴えた原色の場合、塗膜を強く擦ると色落ちすることがあります。衣類など接触する可能性のある部位には使用しないでください。
なお、状況により時々接触するような個所に使用する場合は、ファインシリコンフレッシュクリヤーを上塗りに塗装してください。
クリヤーのローラー及び刷毛塗装で、下塗り塗膜の再溶解や滲みが発生する場合には、スプレー塗装をしてください。
- 37.濃彩色を塗装する際には、つやむらが目立ちやすくなるおそれがありますので、事前に試し塗りをしてご確認の上、ご使用ください。
- 38.大面積の塗装では補修部分が目立つことがあります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの条件を同一にしてください。
- 39.はけ塗り仕上げとローラー仕上げが混在する場合、使用量、表面肌が異なるため若干の色相差がでますので、はけ塗りの部分は希釈を少なくして塗装してください。
- 40.ローラー塗りの場合、ローラー目は同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により、色相や仕上がり感が異なって見えることがあります。
- 41.塗装方法により色相が多少変化する場合がありますので、ローラー塗りはできる限り入り隅まで入れてください。
- 42.汚れ、きずなどにより補修塗りが必要な場合があります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの塗装条件を同一にしてください。
- 43.布クロス、紙クロスや汚染防止のクロス(シリコン加工され水をかけると著しくはじくクロス)には塗装できません。
塩ビクロスで可塑性移行が考えられる場合は水性シミ止めシーラーを塗装してください。
- 44.可塑性が多く含まれる塩ビクロス、塩ビソル鋼板、塩ビラミネート、プラスチック、ゴムパッキン、合成皮革などへの直接塗装はお避けください。
また、これらの部材に塗膜が直接触れることがないようにご注意ください。
- 45.塗料は内容物が均一になるようにかくはんしてください。特につや調整品では、つや消し剤が沈降している場合がありますので、かくはん機を用いて缶底の沈降物を十分ににかくはんしてご使用ください。
- 46.開封後は一度に使い切ってください。やむを得ず保管する場合は密栓してから冷暗所で保存し、速やかに使い切ってください。
- 47.塗料漏洩の原因になりますので、保管・運搬時に容器を横倒しにしないでください。
- 48.内容物/容器を国際、国、都道府県又は市町村の規則に従って産業廃棄物として廃棄してください。
- 49.塗料、塗料容器、塗装具を廃棄する時には、産業廃棄物として処理してください。容器、塗装具などを洗浄した排水は、そのまま地面や排水溝に流すと環境に悪影響を及ぼすおそれがありますので、排水処理場などの施設に持ち込むか、産業廃棄物処理業者に処理を依頼してください。

■本カタログ掲載商品の詳細な危険有害性情報や使用上の注意事項等については、安全データシート(SDS)をご参照ください。

■本製品は日本国内での使用に限定し、輸出される場合は、事前に相談ください。

日本ペイント株式会社

北海道支店	☎ 011-370-3101	近畿支店	☎ 06-6455-9608
東北支店	☎ 022-232-6711	中国支店	☎ 082-281-2180
関東支店	☎ 03-5479-3614	四国支店	☎ 0877-56-2346
北関東信越支店	☎ 03-5479-3614	九州支店	☎ 092-751-9861
中部支店	☎ 052-461-1960		

- 本カタログの内容については予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。
- 本カタログ中の製品名・会社名は、日本ペイントホールディングス株式会社または日本ペイント株式会社・その他の会社の、日本およびその他の国の登録商標または商標です。
- ©Copyright 2024 NIPPON PAINT Co., Ltd. All rights reserved.

カタログNo.

NP-C068

AA240415H
2024年4月現在